

「引き渡し訓練」はだれの訓練？

「引き渡し」をするのは、身近に命の危険がある時です。警報が発令されている時はもちろん、危害を及ぼしかねない不審者が出現した時などにも、学校は確実に皆さんを家族に引き渡さなければなりません。

大雨警報が発令された時を考えてください。昨日のように、のんびりと引き渡しはできません。降りしきる雨の中、視界不良やスリップ等で車で引き取りにくる家族の危険性も大きくなります。引き渡す私たち職員もずぶ濡れになって、車の誘導や生徒の引き渡しの確認をしなければなりません。こう考えると、「引き渡し訓練」は家族と職員の訓練だと思えてきそうですね。昨日の訓練で、私は車を待機させる砂利の駐車場にいました。我が子を少しでも早く引き取ろうと、多くの車が一気に集まりました。駐車場には長い車列ができ、なかなか前に進みません。引き渡し現場の生徒玄関はどうなっているかと思っただけ移動してみると、なかなか進まない原因の一端が見えてきました。

どの生徒の迎えかを確認するために、三名の若い男性職員が生徒玄関前で忙しく動いています。学年と生徒名を聞いて生徒玄関の中にいる職員に伝えます。伝えられた職員は、大きな声を出してラニングコモンズに集まった生徒に呼びかけます。

「○年△組の□□□□さん！……。」
「○年△組の□□□□さん！……。」
「○年△組の□□□□さん！……。いないの？」

二度も三度も呼ばなければならぬことが結構ありました。中には仲間のおしゃべりに夢中になって、呼ばれていることに気付かなかった生徒もいたようです。呼ばれても返事をしない生徒、返事をしても声が小さく気付かれない生徒もいました。その度に、担当の職員が何度もその生徒の名前を大きな声で連呼していました。

こういう状況を目の当たりにして、私は気付きました。「引き渡し訓練」において、生徒の皆さんがすべきことは二つあります。

一つは、「呼んでもらえるだろう」ではなく、「呼ばれるかもしれない」という意識を持ち続けることです。後者の意識でいけば、反応も動きも格段に早くなるはずです。フードコートで自分の注文したものが呼ばれる時の意識ですね。お腹がすいているので、「早く来ないかなあ」と待っているでしょ。それと同じです。

二つ目は、返事をすることです。「したつもり」だけでは、命は守れないと考えた方がよいでしょう。相手に届かない返事では、あなたを守ろうと頑張っている家族や職員に心配や手間をかけることになってしまいますからね。大きな返事一つで、安全が確保されると思ったほうが賢明です。

「引き渡し訓練」は、家族、職員だけの訓練ではないとわかってもらえただでしょうか。引き渡される生徒の皆さんにも、意識と返事を大切にして訓練に臨んでもよい状況であることですけれどね。

(五月十二日 記)

